

小山田小

2024年4月8日

1号

町田市立小山田小学校

校長 小澤 新也

042(797)1824

<http://www.machida-ky.jp/e-oyamada/>

多様な他者とのかかわりを通して新しい自分に出会う

校長 小澤 新也

小山田小学校の校庭の桜もようやく咲き始めました。4月5日以降に桜が満開を迎えるのは12年ぶりだとのこと。

お子様のご入学、ご進級おめでとうございます。本日、37名の新1年生を迎え、全校児童208名の子供たちとの新年度が始まりました。

昭和27年（1952年）忠生第二小学校として開校した本校は、今年度創立73年目に入ります。分校としての開校はさらに50年遡りますので、この地に学校ができて、112年を数えます。卒業生は親子二代、三代と重ねる方もあり、4000名を超えました。

校長室に残る学校沿革史や卒業アルバム、周年記念誌等を開いてみると、諸先輩の努力と地域の方々の学校に寄せる熱い期待と協力によって、本校のよき伝統、よき校風が築かれ、脈々と受け継がれてきたことが記されています。現在も、PTA活動や健全育成活動等を通して、多くの皆様が小山田小学校に関心をもち、支えてくださっています。

また、小山田小学校で勤務したことが貴重な経験となったと語る教職員も多く、再びこの地に戻り、様々な形でかかわりをもってくださる方もいらっしゃる等、小山田小学校のもつ、多くの人を惹きつける磁場の力を感じます。

今年度、町田市では教育に関する総合的な施策の大綱を改定しました。その基本となる理念は、“誰もが自分らしく未来を描き、叶えるまちへ”です。

デジタル化やグローバル化、多様性を尊重する社会の意識の高まりなどの環境変化を考えたとき、持続可能な社会の実現に向けて、子どもたちは、自ら学び、自ら考え、そして、自らの言葉で伝え、思いを実現していく力を身につけていく必要があります。

すべての子どもが自分らしく未来を描き、それを叶えるためには、安全・安心な生活があり、拠り所となる居場所があることに加え、子ども自身が、自分の思いを自由に表明できることが大切です。そのためには、学校はもちろんのこと、保護者や地域の皆様にもご協力いただき、未来を担う子どもの声に耳を傾け、尊重し、思いを受け止め、その未来の実現のために何ができるかを、それぞれの立場から考えなければなりません。

学校を取り巻く環境は大きく変化しつつあります。学校にいなくてもオンラインを通じて授業を受けられる環境が整ってきました。町田市教育委員会でも、学びの場は学校だけではないことを支援する動きも加速しています。

子どもたちにとって、学校とはどんな場であるべきなのか。子どもにかかわるすべての教職員が意識していくことがとても重要になってきました。新年度が始まる今、学校のあるべき姿を「多様な他者とのかかわりをもつ場」と提起します。子どもたちにとっての多様な他者とはともに教室で学ぶ仲間であり、教職員であり、学校で出会う保護者や地域の方々等です。学校で学ぶことを通して、新しい自分と出会う。そんな学校を目指して、今年度の小山田小学校の教育活動をスタートします。